



屋内侵入の強盗事案に備えましょう

シリーズその①: 侵入強盗事案に備える4原則

警察当局からの通報で2024年の柏市内発生事案では、地域によって戸建て住宅、店舗、事務所侵入犯が増加しました。昨年秋口以降には、闇バイトで雇われた素人集団による強盗事案が全国的に話題となり、千葉県内の幾つかの場所で被害が報告されました。

幾分昨年の状態は落ち着いてきており、被害の発生も減少していますが、依然として再発のリスクがありますので、是非警戒しましょう。今回は、強盗する側が嫌う4つの原則をお知らせしますので、地域、各家庭でこれに沿った対策を講じましょう。キーワードは「監視の目、光、音、そして時間(のかかる対策)」です。



監視の目

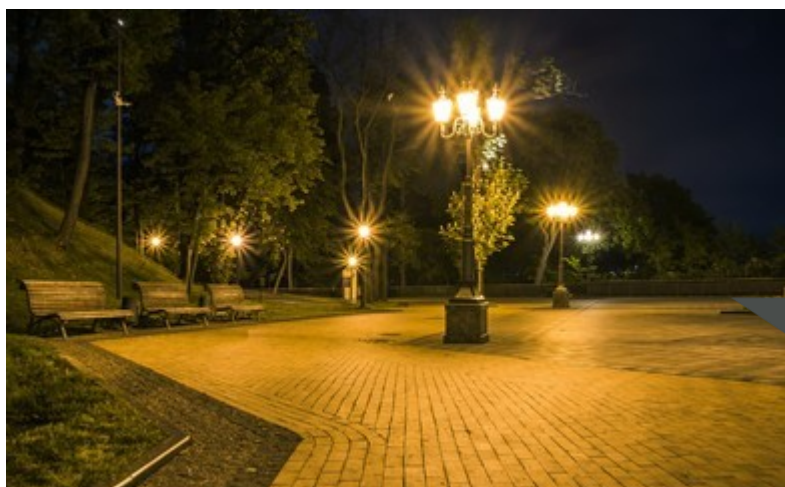
犯罪者は、自分が捕まらないため、顔や姿を出来るだけ見られないようにします。



防犯カメラ作動中



監視の光



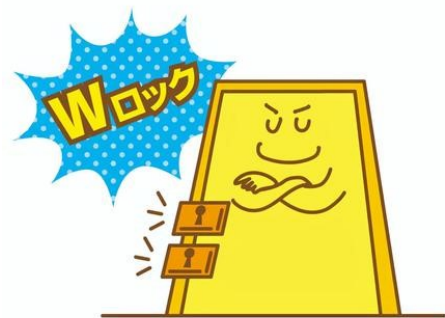
周囲を明るく照らすことで、犯罪者は忍び込みを躊躇します。

窓は補助錠を→

監視の音



←鳴き砂を敷くことで
侵入を躊躇させます。



侵入に時間がかかる